



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	TEDxHokkaidoU2015 『Allure of Adventure 冒険の誘惑』
Author(s)	TEDxHokkaidoU
Issue Date	2016-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61372
Type	lecture
File Information	TEDxHokkaidoU.pdf



TEDxHokkaidoU

x = independently organized TED event

MISSION FOR TEDxHOKKAIDOU

『魅力的でわくわくするTEDxイベントを北海道大学でも開催したい』

私たちはTEDxHokkaidoU開催によって、学部を超えたアイデアを共有できる場を創り、北大だからこそ発信できるトークを展開していきたいと思っています。TEDxは日本全国・世界中にコミュニティがあります。世界中のあらゆるTEDxに参加したすべての人々と繋がることのできるのも魅力の一つです。

TEDxHokkaidoUを通して、北大から世界中のすべての人々に、新しい発見を、ドキドキやワクワクを伝えたいと思っています。

ABOUT TED TEDx

TED

TEDは『価値あるアイデアを世に広める』ことを目的とするアメリカの非営利団体です。

1984年に Technology, Entertainment, Design の3分野からスピーカーを呼びカンファレンスを行ったことから始まったTEDですが、その後、あらゆる分野における最先端の人々が集まる場へと発展しました。

年1回開催されるTEDカンファレンスでは70名程のスピーカーが一人最大18分間のスピーチをし、またその様子はインターネット上で無料配信されます。

スピーチの後にはスピーカーと聴衆が交流出来る場がもたれ、アイデアの交換がなされます。

TEDx

TEDxとはTEDの「価値あるアイデアを広める」“idea worth spreading”の精神をもとにTEDが創設したカンファレンスプログラムです。世界の各地域で人々を集め、TEDと同じくアイデア・刺激を共有し、その上で参加者同士の繋がりも広げ得ていくことを目的としています。

各地域のTEDxはTED本カンファレンスの内容を基本としながら、それぞれの個性を生かし創造性を働かせ、運営されています。

道内各地でもTEDxSapporoやTEDxHIUのように多くのTEDxイベントが運営・開催されており、TEDxSapporo2014の際に登壇した植松努氏の動画はYouTubeで現在100万回近い再生数を誇っています。

TEDx

HokkaidoU 2015

x = independently organized TED event

Allure of Adventure

2015年10月11日(日)に、TEDxHokkaidoU2015が開催されました。
約80名のParticipantの皆様、Ustream中継をご覧になっていただいた皆様、
Partnerの皆様、Staffの皆様、そして何より7名のSpeakerの皆様のおかげ
で無事、初イベントを終了することができました。

Allure of Adventure

MESSAGES IN THE THEME



TEDxHOKKAIDOU

YoutubeのTEDxチャンネルにて当日のトーク動画を公開いたしました！ クリックするだけで始まる新しい「冒険の誘惑」をぜひご覧ください！

2015テーマは “Allure of Adventure -冒険の誘惑-”

Adventure「恐れることなく自分の好奇心に素直になれ！挑むんだ！」

Allure「周りには無数の選択肢がある。自らの手で掴み取るんだ！」

というメッセージが込められています。

ロバート・トムソン

北海道大学文学研究科 行動システム科学講座 博士後期課程
スケートボード単独旅行ギネス記録保持者



1980年、ニュージーランド・インバカーギル市生まれ。13才に日本人の同級生と友達になり、16歳に1年間福岡県筑紫野市に交換留学をする。その後ニュージーランドのカンタベリー大学で日本語を専攻し文学部を卒業、日本政府のJETプログラムで大分県に2年間、立命館アジア太平洋大学に1年間勤めた。Office workに不満を感じ、アドベンチャーを求め、日本からイギリスまで自転車でユーラシア大陸を横断することを決断。18か国、9か月、12,000kmをスイスまで自転車で横断した後、移動手段をスケートボードに切り替える。当初のイギリスまでの計画を世界一周に変更し、ヨットでの渡航を含み、結局1年半のスケートボードによる旅となり、12,159kmのギネス世界記録として承認される。世界中のインターネット技術の普及に圧倒され、ニュージーランドに帰国後にインターネット利用と文化変容を中心に研究し始め、現在に至る。現在は北海道大学大学院文学研究科博士後期課程に在学中。

エリザベス・タスカー

北海道大学理学部宇宙物理学研究室助教

英国ダラム大学にて理論物理学の学位を取得後、オックスフォード大学院の天体物理学の博士号を取得。その後はイギリスを離れてアメリカ、カナダ、日本で研究員となる。2011年より北海道大学理学部宇宙物理学研究室助教。

趣味はブログを書くことで、得意でない日本語を話すことで起こるさまざまなハプニングについて綴っている。

大きなコンピュータを使用したシミュレーションにより宇宙がどのように動いているのかを研究している。特に、星や惑星の造られ方に注目し、惑星に存在するガス雲がどのように星になるかや、木星のような巨大なガス惑星が小惑星サイズの岩でどのような影響を受けるかをモデリングしている。熱心な科学コミュニケーターで、「Nautilus」「The Conversation」「Scientific American」への論文掲載あり。北海道大学における研究課題に脚光を当てるブログ「Spotlight of Research」の創設者。



松田光希

SPK創設者/日本パルクール協会会長



北海道札幌市出身、北海道大学理学部卒業。高校在学中の2008年に留学先のカナダにてパルクールを始める。2009年より札幌市で市民参加型のパルクール練習会を開始。北海道初のパルクールチームJINの立ち上げ、北海道大学初のパルクールサークルSapporo Parkour Krewの立ち上げ、市民向けパルクールワークショップの開催を通じ、札幌のパルクールシーンの発展に従事する。また、2008年より国内外のパルクール情報を発信するブログを運営し、インターネット上での日本語におけるパルクールの情報提供に努める。2014年4月に「気軽に誰もがパルクールを楽しめる日本をつくる」「日本のパルクールという文化を確立する」を理念として日本パルクール協会を設立。現在は会長として、国内外のパルクール情報の取材と発信、パルクール団体・活動家のコミュニティ形成、パルクールの普及・啓蒙活動に尽力している。

松代 弘之

北海道大学理工学部卒業生
一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟 代表理事

1962年北海道小樽市生まれ。北海道大学工学部卒。大学卒業後は東京で就職。30歳で帰郷し、会社を設立。大手ITグループに買収されると再び東京へ。東京ではウェブコンテンツの開発からウェブマーケティングまで、ITビジネスにどっぷり浸かりながら充実した日々を送っていたが、帰省の度に感じる小樽の斜陽化はいつも頭を離れなかった。50歳で小樽の活性化に貢献しようと決意。IT企業を退社し、(株)おたるまるを設立。すると、セレンディビティに遭遇。スポーツGOMI拾いを主催する馬見塚建一氏のスポーツで社会課題を解決する理念に共感。雪国の社会課題となりつつある「独りでは雪かきができない高齢者」を救済すべく、スポーツ雪かきを考案し、馬見塚氏らとともに日本スポーツ雪かき連盟を設立。外国人観光客の体験プログラムとしても活用できるイベントとして、小樽商工会議所青年部が主体となり、2014年1月、第1回国際スポーツ雪かき選手権を開催した。住民と観光客が交流できるイベントとして小樽活性化に貢献し続けることを願っている。



久保 まりな

北海道大学法学部 4年
トビタテ！留学JAPAN 一期生

1992年11月11日生まれ。札幌旭丘高校出身。専攻は政治思想。T.M.Revolutionと江頭2:50を師と仰ぐ22歳。好きなことは旅行、温泉、歌うこと、服を集めること。苦手なことは車の運転で、8回中4回の自損事故をおこした同乗者キラーである。大学生であるからにはたくさん海外に行きたいが金がないので、格安で外国へ行く機会を探し続けている。さまざまなプログラムに応募しまくった結果数か国に渡航でき、たくさんの刺激を受けた。「トビタテ！留学Japan」の1期生としてインドに留学もした。渡航先で聞いた「学生時代はとにかく好きなことをやるのがよい」「やりたいことが見つからなかったら100人のスゴイ人に会え」という言葉をバイブルにしている。「何もやらない」ということをやりたいという強い意志が芽生え、数ヶ月間を主に布団の上で過ごしたことも。海外経験による価値観の変化により、自分の好奇心にとっても素直な人間となった。そんな私の最近の議題は、一生好きな服を着つづける方法と笹かまぼこの地位向上について。



山田 智久

北海道大学国際本部留学生センター 准教授

1975年函館市生まれ。小学校時代、海外出張から父が持ち帰る外国のコインに興味を持ち、外国への興味が芽生える。大学時代にヒッチハイクをしながらイギリスからモロッコまで旅をし、世界の広さと自分のちっぽけさを知る。大学卒業後、ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)ディプロマ課程に進学。たくさんのホンモノとの出会いに強烈なショックを受け自分の進路について真剣に考えはじめる。次いで、ロンドン大学教育研究院にて言語教育学修士号を取得。同院を卒業後、SOASランゲージセンターにて日本語と日本文化を教える講師を勤める。異国で働くうちに自国への貢献を強く意識するようになり、2003年、28歳で帰国するも職が見つからず犬の散歩をして一年を過ごす。2004年より北海道大学留学生センターで非常勤講師として留学生の日本語教育に携わる。2009年より佐賀大学留学生センター専任講師、2012年より現職。博士(学術)。専門は教師教育とICTリテラシー教育。平成26年度北海道大学エクセレントティーチャーズ。



鈴木 章

北海道大学名誉教授
2010年ノーベル化学賞受賞者

1930年北海道むかわ町生まれ。1960年北海道大学大学院理学研究科博士課程修了、理学博士。北海道大学理学部助手、工学部助教授、教授を経て、1994年より名誉教授。2004年日本学士院賞受賞、2010年文化功労賞者、文化勲章受章。2010年ノーベル化学賞受賞。2005年より日本化学会名誉会員。2011年より日本学士院会員。2012年より英国化学会名誉フェロー。1979年に発表した「鈴木クロスカップリング反応」は、水に安定で毒性がないなど数々の長所によって高血圧治療薬や抗がん剤などの医薬品、農薬、液晶や有機ELディスプレイの製造など幅広い分野で利用され、ノーベル化学賞受賞に至る。現在は、若者を中心に多くの人へサイエンスの素晴らしさを伝えるべく、世界中で講演活動を行っている。

